

『VIEW21』高校版・2019年度「実践AL」授業デザインシート

【教科・科目】	国語・現代文B
【分野・単元】	評論
【テーマ・作品】	丸山真男『『である』ことと『する』こと』
【設定時数】	全9時間(今回の取材対象は8時間目の授業)
【単元の目標】	試行錯誤を通して学問の基本姿勢を体感する。

時数	学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各時間における教育目標 (身につけさせたい資質・能力)	左記の資質・能力の「学力の3要素」への分類	授業の大まかな流れ	授業における3つの視点の学びに対する指導内容・教師の配慮			育成を目指す資質・能力の評価方法
					主体的な学び	対話的な学び (教師による場づくりへの配慮)	深い学び (教師による思考の活性化・深化への配慮)	
1	夏目漱石「現代日本の開化」をA4一枚に要約する。 授業者によるリレー授業のデモンストレーションを聞き、これから取り組む学習について理解する。	大まかな文章のつかみ方を学ぶ。 自分たちがこれから何をするのかを把握できる。 「各分野で読み解く」とはどういうことを理解する。	知識・思考力	夏目漱石「現代日本の開化」をA4一枚に要約する。 授業者によるリレー授業のデモンストレーションを聞き、これから取り組む学習について理解する。	これまでとは異なる学問へのアプローチの面白さを味わう。		これまでの評論読解とは異なる、他教科からのアプローチの手法を知り、着眼点を多様化する。	要約シート 観察
2	チーム分け 好きな教科ごとに10チームを作る。(教室を5～6パートに分け好きな教科のブースを作り、それぞれの教科に分かれやすいようにする)	発表の方向性や個人の役割について仲間と共有する。	思考力・判断力・主体性・協働性	教室を6ブースに分け、「国語」「数学」「英語」「理科」「社会」「その他」に各生徒が移動する。 近い生徒同士でグループを結成し、担当意味段落やリレー授業題材などについて話し合う。		興味分野が近い者同士で話をする機会が設けられているか。		グループワーク
3	意味段落1～5をグループごとに分担してA41枚のプリントにまとめる。	内容を理解し、相手に伝わりやすい工夫を考えてまとめることができる。	思考力・技能・表現力・協働性・多様性	担当意味段落をグループでA41枚にまとめる。その際に「他者意識」をテーマに資料を作成する。	他者意識のためにどのように表現するのが効果的かを試行錯誤する。	互いに表現方法について意見交流し、表現の多様性にも触れられているか。		グループワーク
4	3と同様					互いに表現方法について意見交流し、表現の多様性にも触れられているか。		発問
5	リレー授業の内容をチームで考える。	評論の内容を多様な文脈で表現することができる。	思考力・技能・表現力・協働性・多様性	今回の文章を自分たちの興味分野にどう引き付けるかをじっくり考え、見当がつかない資料作成をはじめる。	本文を自分たちの文脈に落とし込むことで、文章が「横」に広がるのを実感する。		まずは耳を傾け、些細なつぶやきを教員が拾うことで一つ一つのつぶやきをグループで掘り下げていく。	グループワーク
6	5と同様						まずは耳を傾け、些細なつぶやきを教員が拾うことで一つ一つのつぶやきをグループで掘り下げていく。	グループワーク
7	ジグソー形式で各意味段落の内容を発表する。	評論の内容を自分の言葉で的確に相手に伝えることができる。	思考力・表現力・協働性	各意味段落ごとに1名ずつでグループを結成し、3分間で担当段落を説明する。(各班で作成した資料は教員があらかじめ人数分コピーしておく)		自分の担当段落を班員全員がよく分かっていないという状況によってより言葉を尽くして語れるようになっているか。		観察
8	リレー形式で各班3分で発表する。	自分たちの発表内容を効果的に伝えることができる。	思考力・表現力・協働性	各班3分で全体に向けて、本文をテーマに自分の興味ある教科にひきつけて発表する。	的確な表現で大勢の他者にむけて説明する。			観察、成果物
9	最終意味段落を全体で確認。 全員の発表内容を織り込み、「解説書」としてフィードバックする。	評論全体の内容を理解することができる。	思考力・知識	最終段落を音読し、適宜分かりにくい部分がないかの最終確認。 これまでのすべての資料をひとまとめにして全員に配布する。	同じ趣旨の話をそれぞれがどう表現しているかを楽しむことができる。	同じ趣旨の話を他者がどう表現しているのかを比較できるか。	最終意味段落の内容について「現代における具体例」を考える時間を作る。	発言、ペアワーク